

2004年度 大学院法務研究科

法学既修者認定試験

憲 法

(問 題)

16歳の少年Xは、出会い系サイトで知り合った数人の女性を、金員を奪う目的で次々と殺害したため逮捕された。Y1社の発行する週刊誌の編集長Y2は、この事件の社会的反響の大きさと読者の関心の強さを考慮し、また事件の原因を明らかにして再発防止策を社会的に考えることが必要であるとして、少年Xの実名と写真を掲載し、家庭環境を詳細に報道した。これに対して、Xは、当該記事が少年法61条に違反するとして、Y1およびY2に対して損害賠償請求訴訟を提起した。

以上の事例に含まれる憲法問題について説明し、Xの主張の当否について論ぜよ。

また、上記の事案で、仮に少年法61条に罰則規定があり、Y2が刑事訴追された場合の憲法問題についても論ぜよ。

以上

<少年法61条>

「家庭裁判所の審判に付された少年又は少年のとき犯した罪により公訴を提起された者については、氏名、年齢、職業、住居、容ぼう等によりその者が当該事件の本人であることを推知することができるような記事又は写真を新聞紙その他の出版物に掲載してはならない。」